

ちなみに、

えりきみの「えり」こと、勸里絵利奈です。5月後半から6月前半にかけて、関東へ出張に行ってきました(実はこの記事を書いている現在まだ出張の最中です)。今回の目的の一つである、5月27日に行われた東京沖州会の様子をお届けします。



「沖州会(ちゅうしゅうかい)」って、知っていますか。沖永良部島の出身者や縁故者で構成される郷友会で、全国に十組あります。その内の一つ、東京及び近県をベースに活動する「東京沖州会」の、第二〇五回となる総会・敬老会・芸能祭に行ってきました。会には三〇〇人近い参加者が集まり、総会の議事がすべて済んだ後は芸能祭に移ります。島唄や三味線、そして方言が飛び交う館内は、まるで自分が「フーラル館」にいるのかと勘違いするほど。会の終わりにサイサイ節をみんなで踊るのも島と一緒にです。参加されていた方には、「この雰囲気、異様でしょー笑 若いときは行こうと思わなかったけど、年を取ると、これが楽しみでねー」と。確かに異様だと思いましたが(笑)、それ以上に楽しそうにされている皆さんの姿が印象的でした。主催者の皆さん、良い時間を有難うございました。

さて、話は少しズレますが、皆さん「関係人口」という言葉をご存知ですか。イメージとしては、島に定住している「定住人口」と、観光客のように一時的に滞在する「交流人口」の間になる、「島には住んでいないけれど、島に深い関心を寄せている人」のことを指すようです。例えば、沖州会に参加をする、島の出身者や縁故者は、「関係人口」に繋がりがやすい人。他には、仕事で一時的に滞在して島に思い入れがある人や、観光で訪れ島を気に入った人も。「島のファン」と置き換えるとかかりやすいかもしれません。そして私自身、元々「関係人口」の一人。父が出身者で、里帰りの時に訪れていた沖永良部島を好きになったのですが、思いが募り、移住をしてきたわけです。今、交通網の整備や、情報通信技術の発達で、ソトとウチが格段につながりやすくなりました。これまで述べてきた「関係人口」の関係性をも更に深まっていくと思います。そんな中、私たちに必要なことは、今まで通りですが、島のファンを大切にしたい。島のファンに大切にしてみよう。島外に家族がいる人は、家族に島の情報を伝えてみる、観光客を見かけたら、話しかけてみる。そういったひとつひとつが、これまで以上に、意味を持っていくだろうな、と、感じています。



1&2_今井町長、人気者でした。3_漫才師「ぼっけもん」の伊藤さんは、ご両親が知名出身。(ぜひ応援を!)4_知名ハッピーでの記念撮影、大人気。5_体に根付いている唄や踊りの文化は島を離れても消えず。最終的には、しっちゃかめっちゃか!笑